

水稲V溝乾田直播栽培の生育状況（6月28日現在）

■ 耕種概要等

- ① 品 種 まっしぐら
- ② 圃場造成 秋季耕起、代かき
- ③ 種子処理 種子消毒後に浸種
キヒゲン R2 フロアブル塗抹
- ④ 播種機 V溝播種機
- ⑤ 播種日 4月28日
- ⑥ 播種量 乾籾 10kg/10a 程度
- ⑦ 施肥量 窒素成分 10kg/10a 程度 (LP100)



播種作業の様子

■ 生育状況



6月28日現在のイネの生育は、水深が浅い地点（7cm程度、写真左上）で草丈が43.6cm、茎数が980本/m²、葉色値（SPAD-502）が33.3、水深が深い地点（12cm程度、写真右上）で草丈が41.9cm、茎数が815本/m²、葉色値が33.2でした。

生育は順調で、天水を利用した深水管理を継続しています。なお、例年よりイネドロオイムシの食害が多くみられています（写真右下）。

■ 栽培管理のポイント

- ・ 茎数を十分確保した圃場では、雑草と無効分けつの発生を抑制するために10cm程度で深水管理することを推奨します。
- ・ また、地固めのための中干は不要ですので、用水が止まる圃場では7月以降は天水を溜めるようにします。
- ・ 一発除草剤による雑草の取りこぼしが多い場合は、中・後期除草剤での防除が必要ですが、残草している草種によって選択する除草剤は異なります。除草剤の使用 방법에不安があるときは、農林総合研究所にお問い合わせください。

※ 農薬を使用するときは、必ず最新の農薬登録情報を入手して、直播栽培に登録があることを確認してください。

⑥ 7月以降、用水の通水終わりまでは深水管理



深水管理の痕跡

深水管理した稲は地際が黒くなっています。
この栽培では、深水管理しても十分な穂数を確保できます。

- 7月になったら幼穂形成期頃まで10cm前後の深水にします。
- 中干しはしません。
中干し時期に用水の通水が止まる圃場では、通水が止まる前にできるだけ水を溜めておきます。

※水稲V溝乾田直播栽培マニュアルから引用